



## 新年のご挨拶

理事長 小山 眞

新年あけましておめでとうございます。

本年が皆様にとって明るく、素晴らしい年になりますよう祈念いたします。

昨年一年間をふりかえって思いますと利用者みなさんとスタッフの方々並びにご協力下さる各企業さん等々の素晴らしいご努力を重ね、皆して互いに進歩をした年であったと思います。

「すまいる京目」・「すまいる柴崎」・「アロマ」・「さーくる」の各作業所の職員みなさんの努力によって最近利用される方が徐々に増え又喜んで通所していただいて、一生懸命に働く姿を見て、喜ばしいとともにひと安心していますが、これからもより内容の充実と福祉の向上をめざしてまいりますので、ご指導とご協力をお願いいたします。

次に前からの目標であります、グループホームの設立の件ですがなかなか思うようには進んでいません。今年度はぜひとも実現に向け進めていく所です。

グループホームを待ち望む方にはもう少しおまちいただきたいと思います。

昨年6月、初めての利用者さんの宿泊旅行（ディズニーランド）を企画しました。

家族以外の人との宿泊旅行は、ホテルで眠れるのだろうか？朝起きられるのだろうか？とハラハラ・ドキドキしたようですが、全員が元気で無事に高崎にもどってまいりました。職員にとっても利用者の方にとっても今までできなかったことができるようになることは本当に喜ばしいかぎりです。準備から旅行中の気くばりや努力には頭が下がります。本当にごくろうさまでした。

昨年、社会福祉法人制度改革（社会福祉法等の一部改正）が国会で可決され、この4月より適用されます。当法人も役員及び定款の変更の準備を始めているところです。

またこの改革では社会福祉法人として真価を問われ、今後は事業運営のみならず、地域福祉への貢献を求められることにもなります。

まずは自分たちのできるところから始めようと思いますので、

これからも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

そして本年もどうぞよろしくお願い申し上げます、

新年のご挨拶とさせていただきます。



研修報告 . . . 昨年参加した沢山の報告の一部をご紹介します . . .

## 第20回あみ全国大会 in 東京「amix ひろがる つながる できること」

平成28年7月8日 日本赤十字大学にて

### 第6分科会「対人支援技術の極意」

～下から目線のスーパービジョン～に参加して

さーくる サービス管理責任者 丸山 尚子

共感はしなくてはいけないのか？無理に共感し

ようとするのではなくて相手のかかわりを育てて深める。共感はしようと思っ

てするものではない。腑に落ちる瞬間である。相手との「ずれ」がある。いかに支援者は利用者にとっての解決方法を知らないか？いかに利用者は自分にとっての解決方法を知っているか？

利用者が相談しているとき、すべてを語っているわけではない。面接には不在の他者がいる。支援者は利用者に教えてもらわないと何もわからない。

今回の研修を受け、これからの支援で私は次のようにありたいと思った。

人間はみんな全然違う。だから相手のことを私たちはほとんどわからない。知らないことを知る。でも人間としてあるべき姿はある。相手がそうでない時その時は千差万別。だから自分の物の見方で考えると間違ふ。そうでない相手を否定すると解決にならない。そうでない理由をきちんと聞く。すぐわからなくても関わっていく。他の職員に相談する。そのうち腑に落ちる＝共感できる。不適切な行動をとった理由がわかると先に進める。

すまいる生活支援員 シンシア相談支援専門員 飯田 エミ子

講師の方が5時まで話したいとおっしゃる通り、このまま5時まで話を聞きたいと思える内容で日々の支援を見つめ直す良い機会になった。

日々の支援の中で言葉の使い方・受け止め方にもっと気を付けていかななくてはと思った。相手と自分の見ている世界は違うということは当たり前なことなのに、相手がなかなかこちらの思いをわかってくれないと「なんで？」と相手を責めたり、イライラしたりしてしまうことがあるが、まず違う考えを受け入れ、相手から何かを教えてもらおうとすることが必要なのだと感じた。

### 第2分科会「高齢障害者暮らし」～制度を超えて暮らしをデザイン♪～に参加して

すまいる職業指導員（訪問型職場適応援助者）上條 かおり

障害者の制度を利用していただ方が介護保険に移行し、支援の方向性が問題になっている。この事に対して介護保険で認められるか心配でびくびくしている中、制度上の対象に捉われない支援が必要との話でした。

本人らしい生き方、暮らしを支援する視点の大切さと、寄り添いながら支援していくことが必要になってくると感じました。



## 2016 フォローアップ研修会

「時代をとらえ、未来につなぐ ～私たちにできること・すべきこと～」

平成 28 年 11 月 26 日 すみだ産業会館にて



### すまいる サービス管理責任者 三浦 恵

今回の研修会で一番印象に残ったのは、古賀氏と原氏の内容だった。やまゆり園の事件は、自分の中にずっと違和感があったが、問題の焦点も整理も自分ではできず、もやもやした感じだけが残っていた。今回の講演を聞くことで、事件の全体像と、問題点が少し明らかになった。社会的なことを突き詰めて考えることはうやむやにして過ごしがちだが、視野を広く持って考えることは必要だと思った。例えば、措置入院からの退院後の見守りのこと。自分の中にも、あんな事件を起こすような人をほおっておいていいのか、自分とは離れたところに置いておいてほしいという気持ちがある。しかし、犯罪防止という名のもと、誰かが誰かを監視している状態が許されていいとも思えない。戦争中、善意の市民がまじめに政府の言ったことに取り組んだが故に、互いに監視しあい、密告しあったような世の中につながっていくような怖さを覚える。病気や障害のあるなしでなく、みんなが同じように地域で生きていくために、見守りがあり、支援があるべきだ。目的を見誤ってはいけない。講演者が述べていたように、医療や、福祉の枠組みと、犯罪防止という枠組みは別のものとして考えていく必要があると言う事だろう。これからも考え続けていきたい。



## 「ある精神科クリニックの強制「通」院の「退」院支援 を聞いて

### すまいる職業指導員 岡本 幸子

全国に強制通院から逃れられない人がいると考えるととても怖く恐ろしいことだと思いました。全国にはなかなか出口の見えない人もいないのではないのでしょうか。誰かに話す勇気を諦めないで欲しいと願います。支援者側の大切なことはやはり、「本人の気持ちを聞く姿勢」であるということでした。もともとは聞く姿勢があるだろうけどなぜ結果的に人権侵害をおこすことになってしまうのか。勉強していきたくてと思いました。



研修会プログラムの内容は、どれも聞いてみたいと思わせるものだった。資料もとてもよく、いつもは軽く目を通すだけだが今回は全て読んだ。そんな中でも気に入ったのは、やはり相談支援に関する保坂氏の活動報告。

8年前に勤務した頃はまだ小規模通所授産施設で利用者とお弁当を作っていたというのは、前のすまいると今のすまいる京目を足したような感じで親近感が持てた。旅人の木に所属して4年目で、現在二人でやっているとのこと。本人の担当は36件。この数を聞いただけで、とても真っ当な仕事をしている事業所だということがわかる。半分の人は初回とモニタリングの時にしか会わないということだが、その中で出来る限り本人を知ろうとし、時には一緒に行動している。現任研修で50件以上担当している人は少なくなく、100件を超える人も何人かいることを知って驚いたが、この件数を抱え保坂氏の言う「本人の力を信じて本人の力をそがないように、可能な限り本人の希望に寄り添う」計画を立てるのは厳しいと思う。他県の相談支援事業所の話聞くのは初めてだったが、誠実な保坂氏の報告から「あくまでも利用者の立場から」という基本を忘れずに相談支援に携わっていきたいと思う。



#### すまいる生活支援員 橋本 雄一

相模原の事件も東京のクリニックの件も、支援者側の人間が起こした事件である。支援者であるにも関わらず、どちらも著しく障がい者の人権を無視した非人道的な犯行だ。しかしどちらにも真摯な反省といった態度は見られない。むしろ罪の意識すら感じなかったに違いない。なぜならパターンリズムに基づいた上から目線の障がい者観を持っていたとしか思えないからだ。「生きていても辛いだけ」「自分で決められない」だから自分たちが助けてやってる。正しい事をしているという感覚こそ最も人の認識を麻痺させる。

こうならないためのヒントがやはり発表の中にあっただ。支援者がすべきなのは本人の意志決定の手助けであり、本人の意志決定の機会を奪うことではない。しかし話の中の支援者たちは「本人に聞かせると調子が悪くなる」といってケア会議への本人の参加に難色を示したり、本人が全く会議に絡ませないまま会議を終わりにしたという。保坂氏はこれに対し提案型の計画を提唱したのだ。しかし、この支援者たちの姿勢もわかる。実際に本人主体で物事を決めようとするれば、非常に多くの時間と手間が掛かることは明白だ。日々の業務に忙殺されながら、じっくりと話を聞いて、本人の意思決定を助けていくことは極めて困難だ。故に保坂氏も自分が正しいという確信は持てない様子であった。しかしこの悩み・自省こそ、我々と容疑者を分かち決定的な差だろう。我々支援者は常に自らを省み続けなくてはならない。



各報告どれも興味深く聞かせてもらったが、中でも原昌平氏の「精神障害とメディア」報告が、誤報や報道による人権侵害の発生メカニズムを、マスコミ側の人から聞いたので、とても意義があったと思った。この様な報道による人権侵害は、単なる記者の取材不足や思い込みが原因で発生したわけではなく、社会のその時点における精神障害への勉強・理解不足も大きな要因だが、裁判結果を待たずに、容疑者＝犯人とみなしてしまう社会の風潮も関係している上、インターネットやSNSやツイッター等から発信される新しい世論も力をつけた今(たとえ匿名による罵詈雑言的なものであろうともサイレントマジョリティとして数えるべきである)、いくらTV・新聞・雑誌社等の既存マスコミだけが自主規制・自主改革したからと言って解決するものではなく、国民全体の(人権)意識改革が必要ではないかとも思った。

これからの事件報道は(人工知能等を用い)事実のみを伝える完全な客観報道と、TV・新聞・雑誌社等の会社や記者個人の方向性をはっきりさせた主観報道とに二分化すると思われるので、この様な会社内だけでなく、業界全体を見据えた記者の葛藤が聞けるのも最後かもしれないと思い、感慨深かった。

## ディズニーランドー泊旅行

すまいる生活支援員 シンシア相談支援専門員 飯田 エミ子

平成28年6月28日、初めての一泊旅行の朝は予報通りの雨、しかも土砂降り。それでも総勢18名、元気に集合し夢の国へと出発しました。

雨は到着後間もなく止み、思っていたより空いていたので、多くのアトラクションを楽しめました。ディズニーならではのスイーツや食事を食べ、エレクトリカルパレードも絶好のポジションで満喫し、思い思いにお土産を買い、キャッスルプロジェクション・花火も見て、夢のような1日が終わりました。パレード見学中、フロートのライトに照らされた皆さんのキラキラとした笑顔を見



て、「来てよかった」としみじみ思いました。

翌日は東京駅で買い物とランチを楽しみ、高崎に無事戻りました。大忙しの2日間でしたが、皆さん疲れていてもお互いを思いやりながら、落ち着いて行動されていました。最後に2日間各施設に残って作業をして下さった皆さん、ありがとうございました。



## シェフ山本の1日限りのレストラン ホワイトデー・特別ランチ

さーくる サービス管理責任者 丸山 尚子

平成28年3月14日「ステーキが食べたい！」という利用者さんの一言から今年のホワイトデーはなんとステーキランチとなりました。前日メトロに助手の利用者さんと買い出しに行き、上州牛ミスジ交雑種2kg、国産牛肉サーロインA(交雑種)2.6kg、その他食材をたくさん買ってきて準備OK。当日は朝礼で「アマチュアだから失敗したらゴメンネ」と話し9時調理スタート！助手の利用者さんがレタスの汚いところをていねいにとり一口大



に切って美しいサラダが完成。ステーキはシェフがカット。思ったより早めに料理は完成し最後にステーキをフライパンとホットプレート2か所で焼きました。焼けた順にアツアツをどんどん食べていただき「こんなにおいしいランチは初めて！」と大好評で大成功でした。普段なかなか外の行事には出られない利用者さんも参加できてみんなで同じ釜の飯が食べられた幸せな1日でした。

## 秋のバス旅行

すまいる 京目 生活支援員 塚越 幹雄

平成28年9月8日、「すまいる」と「さーくる」の恒例行事、秋のバス旅行に行ってきました。予定していた日の天気予報はなんと台風でした。ドキドキしながら迎えた当日の朝、天気は雨。なんとか台風は免れました。自分では集合場所に来られない利用者さんを各担当職員が迎えに行き、予定通りバス旅行を決行しました。今年の行き先は群馬県沼田方面です。最初の目的地は高橋りんご園さん。りんご狩りをする予定でしたが天気が不安定でしたので残念ながらりんご狩りは中止。でもおいしいりんご



をたくさん試食しました。次は耕房あおぞらさんで施設見学。最後は日本一の道の駅、川場田園プ



ラザで昼食と自由行動の時間をとりました。心配していた雨はバスの出発の時から小降りになり、なんと各見学場所では雨は上がってくれました。日頃のみんなのがんばりを見て、きっと神様がでっかい傘をさしてくれたのだと思います。これからもいろいろな企画を立てて、みんなと楽しい思い出をたくさん作っていきたいです。

## 料理教室

すまいる柴崎 目標工賃達成指導員 相澤 みゆき

10月21日、やよい会のみなさんが料理教室に招待して下さいました。料理教室は久しぶりなので、職員も利用者さんたちもとても楽しみにしていました。エプロンに帽子姿、みんなよく似合ってます。二班に分かれて料理スタートです。

メニューは魚のホイル焼きと野菜炒めです。やよい会がハーモニーの調理室を使うのは初めてということで、ハプニングが起こりました。

はじめに炊飯器が一台しかないことに気づいて、やよい会の方があわてて家に取りに行行って下さいました。炊飯器のコンセントを差し込み口に差しましたが通電しないので、廊下の差し込み口を使用して炊きました。

Nさんは、日頃から料理をしているようで野菜を切るのがとても上手く、やよい会の方から褒められていました。魚のホイル焼きは、自分で包んで作った物を食べる予定でしたが、フライパンの中にぎっしりと並べて焼いたので、どれが誰のだか分からなくなってしまいました。野菜炒めは、量が多く炒めるのが大変になってしまい二個のフライパンに分けて炒めました。



みんな協力して完成です。色どりがきれいでとてもおいしくできました。食後に果物やおいしいコーヒーを頂いて最高でした。後片づけもみんな分担して手早くできました。やよい会のみなさま、このような機会を作って頂きまして、ありがとうございました。



## バスハイク go 小布施

アロマ 倉澤 令子

前日、雪が沢山降ったので心配したが当日はまぶしいくらいの快晴になり車中もなごやかに出発しました。道中雪景色をながめながら、何のトラブルもなく現地へ。岩松院では天井に北斎の鳳凰の絵がかかれており116年前のものだと聞き色のあざやかさに驚きました。

足底の冷えも忘れ見入ってしまいました。その後まちに待った昼食は栗おこわ御飯・揚げたて天ぷら・味の良い煮物。みんな大満足でした。



### 平成28年に就職された方々

Aさん 医療法人真木病院

清掃等 H28.6～ 継続

Oさん デイサポート合同会社

製造業 H28.11～ 継続





よろしくお願ひします。

すまいる京目 生活支援員 野崎 雄司

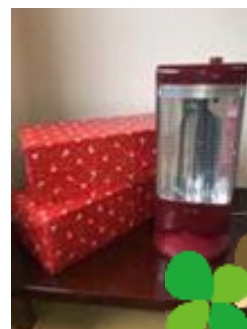
10月からお世話になり、あっという間に3ヶ月が過ぎてしまいました。入職して「まずは皆さんのことを知ること」と「施設の活動や仕組みを知ること」を意識していましたが、色んな仕事があり、目まぐるしく日々が過ぎていきました。職員も利用者さんも1人1人が暖かく、笑いが絶えない施設なので気が付くと疲れる前に1日が終わっていたように思います。皆で納期に向けて一生懸命に作業したのも思い返すと大変でしたが、良い思い出になっています。作業以外にもスポーツ大会やだるま作り教室、芋煮会にクリスマス会と楽しみながら過ごすイベントも多く色んな体験をさせて頂けるので、支援者として学ぶことが多いなあと日々思い返すことが多い気がします。そのため、これからのことを考えると何があるんだろう!?!と楽しみです。これからもお互いのことを少しずつ知り、一緒に楽しみながら過ごしていければと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。



### ありがとうメッセージ



- |                 |                                   |
|-----------------|-----------------------------------|
| ☺ イオンクレジットさま    | 電気ストーブ 3台                         |
| ☺ イオン高崎さま       | 活動資金 総額 72,500円<br>(黄色レシートキャンペーン) |
| ☺ NPO 法人三松会さま   | 月1~2回の食料品の寄贈                      |
| ☺ 日本財団さま        | ホンダ N-BOX 1台<br>(2016福祉車両助成事業)    |
| ☺ 法政大学教授 眞保智子さま | 1,000,000円                        |



この他にも沢山のご厚意をいただきました。ありがとうございました。



・日替わりお弁当・  
注文・配達承ります

すまいる京目弁当事業部

注文専用ダイヤル

027(350)1555

### 編集後記

たくさんの方々のご協力のもと、新しい年を迎えることができました。昨年は様々なイベントや数多くの研修に参加させて頂き、貴重な体験ができました。今年も同様、様々なイベントを企画し、皆で楽しく良い1年にしていければと思いますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

/発行  
社会福祉法人 プライム  
〒370-0011  
群馬県高崎市京目町 201-2  
障害福祉サービス事業所  
すまいる京目内  
TEL 027-381-6171  
FAX 027-381-6172  
ホームページ  
<http://prime.or.jp/>  
E-mail  
smile-kyome@major.ocn.ne.jp

発行責任者 山本美紀子  
発行日 平成 29 年 1 月 5 日